



2月2日(月) **こども園の感染症対策** 保護者アンケートで、感染症対策についてご心配の意見をいただきました。保護者の皆さんには、お仕事を休まなければなりませんので心配するのは当然です。感染症による学校の臨時休業措置は、**学校保健安全法第20条**に基づき、学校長が学校医の意見を参考にして決定します。インフルエンザや新型コロナウイルスなど、飛沫・接触感染が主となる感染症のまん延を防ぐため、学級閉鎖、学年閉鎖、学校閉鎖が選択されます。*こども園は、これに準じて判断します。

1. 臨時休業（学級・学年・学校閉鎖）の判断基準

基準となる欠席率：一般的に、同一学級内でインフルエンザ症状の欠席者・感染者が2割（20%）以上程度となった場合、閉鎖が検討される。

判断のタイミング：学校医等と相談し、学校側が迅速に判断する。

潜伏期間の考慮：感染症の特性（潜伏期間）を考慮し、流行初期に対応する。

2. 臨時休業の期間

5日間程度を目安に、感染拡大状況を踏まえて判断する。

閉鎖期間中に感染者が増え続けた場合は、2日程度の延長を行うことがある。

3. 主な感染症の出席停止期間（個人の場合）

インフルエンザ：発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで

その他（第2種）：麻疹、水痘などは、解熱後3日となっています。

大人は風邪気味とか、何となく風邪の前兆を感じ、マスクをするなどもできますが、幼児の場合は、元気でいても急に発熱する場合があります。また、子ども同士接触する場面も多くあるので感染率が高くなります。また、多少の熱でも、走り回っていると罹患していることに気が付かない場合があります。こども園では体調の変化に気を配り、熱があるとすぐにご家庭に連絡することになっています。感染症がどうかは病院に行かなければわかりません。またお医者さんの指示に従わなければなりませんので、病院に行き、お医者さんから言われたことをお知らせください。こども園は、子どもたちの命と健康を守ることを一番に考えています。引き続き、感染対策に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。感染症に罹らない子、罹っても軽く済む子もいます。

丈夫な体は、「**いっぱい遊んで、いっぱい食べて、いっぱい寝る**」ことです。

保護者アンケートの結果は、こども園部会（学校評議員・育友会三役の皆さん）で報告します。

2月3日(火) 「節分(豆まき)」一年で一番イヤな日

「鬼は怖いもの」子どもたちの頭の中にすりこまれていて、「鬼が来るよ!」と言っただけで泣き出す子がたくさんいます。「怖いものが一つくらいあっていい」と大人は思いますが、子どもにとっては、大変な日です。節分に関する紙芝居を読みました。そこに出てくる鬼は、みんないい鬼ばかりです。鬼は「災難」、「病気」、「邪気」など見えない悪い存在の象徴とされています。また、「鬼は外」と言わない地域や鬼は守り神で「鬼は内」と唱える地域もあります。

今回読んだ紙芝居の鬼は、「最近の節分は、豆をまかないで太巻き寿司を食べるようになり、鬼にとってはうれしいことだ。」とありました。

最近の日本は、クリスマスやハロウィン、バレンタインなど外国由来のイベントで盛り上がりませんが、節分、桃の節句など、日本古来の行事も大切にしたいものです。まだまだ厳しい寒さが続きますが、節分は、冬から春になる季節の分かれ目です。これからだんだんと日が長くなります。春が待ち遠しいです。

「入園式がなくなります」という話を学級懇談会でしています。



幼稚園・保育園・こども園のちがいについて、こども園は、幼稚園でも保育園でもありません。0～5歳まで一貫した保育・教育をめざす幼児教育施設です。女性が安心して子どもを預け、働ける環境を整えるため、また、小学校につなげる幼児教育を充実することを目的としています。

わくわく園が開園して10年が経ち、0～2歳児までの就園率（町内の子が園に通っている割合）が上がりました。2歳児でほぼ100%、1歳児で70～80%、0歳児で60～70%、になっていて、3歳児になる前に入園するようになりました。今年4月、3歳児で入園する子はいません。入園式は幼稚園の名残で、入園式を行っていないこども園があります。入園はいつでも可能です。それと教員の働き方改革の側面もあります。詳しくは学級懇談の冒頭で説明します。

2月4日(水) ◇節分の恵方巻はコンビニの戦略◇

「昨日の節分、お家でも『鬼は外、福は内やった?』豆はいくつ食べましたか?」と4歳児さんに聞くと「豆は食べてないよ。恵方巻だよ」と答えました。

商業的に売り上げの落ちる1月後半～2月初旬の販売イベントとして節分の「恵方巻」を仕掛けたのはセブン-イレブンでした。1989年に広島県の加盟店オーナーの発案により販売を開始したところヒット商品となりました。関西、中国、九州の各地方など西日本での販売を経て、1998年にコンビニエンスストア初の恵方巻全国販売を開始したのです。このヒットを受けてローソンも2001年より、ファミリーマートでも2003年より全国販売を開始。全国的に広がったのです。ですから、私の子どもの頃はありませんでした。コンビニは日本の文化も変えました。恐るべしです。

バレンタインデーやホワイトデーも同じで、商業戦略に踊らされている?と思いますが、世知辛い世の中、幸運が訪れるのであれば・・・と、今年は、コンビニではなく回転寿司のトリトンに恵方巻を予約しました。スマホで南南東を調べて、黙って笑顔で食べました。妻は「豆を70個も食べるのはきついでしょ、夕食の用意をしなくて済むし・・・。」と喜んでいました。「チョコレートと違いプレゼントするわけではないので、まだいいかな?」とも思います。

「うちはね。恵方巻を食べてから、豆まきするよ!ダブルでやるから、きっといいことあるよ。」と言った子もいました。

最近の絵本や紙芝居には、鬼が太巻き寿司を食べているシーンが出てきます。時代は変わりました。

楽しみにしていた?節分の豆まき

わくわく園には楽しい行事がたくさんありますが、豆まきだけは楽しみにしていません。もう何回も経験している5歳児さん「もう、泣かないよ!」とイキがっていた子もギャン泣きでした。鬼役の熱演にビビりました。



2月5日(木) 後期アンケート結果から～第1弾～

2月4日こども園部会:育友会三役や学校評議員の皆さんから意見を伺いました。

「コドモン配信」について コドモン配信を開始して4年になります。導入当初はアンケートでA評価が80%以上の高評価をいただきましたが、年々下がってきました。スマホで園の様子を知る、連絡を見るのが当たり前になり、配信内容のマンネリ、配信の数が多すぎて見るのが大変という意見がありました。コドモン導入は、先生方の業務を軽減する面もありますので、業務量とのバランスを取りながら、皆さんからの意見を受け止め、配信内容や配信の仕方を検討したいと思います。

「地域との連携」について 先生方の評価は高いのですが、保護者の皆さんからの評価はそれほどありません。園では、幼年消防クラブ、静寿園訪問、若返り学級、敬老会、訓高、訓中との交流、野菜倶楽部、米太郎倶楽部、菅野養蜂所、餅つき会では商工会青年部との連携、「さむさむまつり」の雪像づくりなど、その他のものを含めると年間多くの地域と連携した行事を行っています。ところがほとんどが

5歳児の活動で、3歳以下の保護者の皆さんには、「何をしているのか分からない」というのが本音かもしれません。園からの配信の仕方、説明不足が原因ではないかと思っています。

「こども園に望むこと」最後のA~Jの中から複数選択する質問は、全国調査で多い回答の順に並んでいました。今回は、C=「人の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えること」D=「思いやりや道徳心」E=「子どもの興味関心を伸ばし、のびのび生活すること」がベスト3でした。こども園に望むことは、保護者の皆さん、先生ともに思いは一致していました。

職員の対応について ご指摘をいただきました。

「共育」をモットーに進めています。保育・教育は保護者さんとの信頼関係の上に成り立っています。信頼関係を損ねる言動は厳に慎まなければなりません。ご意見を真摯に受け止め、十分注意してまいります。職員で共有しました。

*入園式をしないことについて、春休みの対応について、働き方改革の推進について、こども園部会の皆さんからもご理解を得ました。また、次年度の育友会三役の役員選考についても話が出ました。ご協力くださいますようお願いいたします。



2月 9日(月) **「生命尊重」の心を育むには生き物を飼うのが良い**

保護者アンケートでこんなご意見がありました。本当にそう思います。小学校に生活科が誕生したとき、うさぎやにわとり、やぎなどを飼う学校が多くありました。幼稚園でも情操教育の一環として小動物を飼うところがありました。それは、子どもたち自ら飼育することに意味があったのですが、結局、土日祝日、長期休業日には先生がやることになり、働き方改革もあり、今では小動物を飼育している学校はほとんどありません。

わくわく園では、カメを飼っています。エサやり、水槽の掃除を定期的に担当の先生がやっています。他に小動物を飼うとなると、飼育小屋の設置、先生の配置と負担を考えると難しい状況です。しかし、ご指摘の通り、今の子に「生命尊重」の心を育てることが大事だと思いますので、別な方法で動物を触れ合う体験を検討したいと思います。

「学級懇談の時の託児を他の行事の時にもしてほしい」という要望がありました。これも行事に参加しやすくするために必要なことだと思います。しかし、学級懇談の時は夜の時間帯なので、職員の配置は可能ですが、昼間の親子レクの場合は、先生方全員が保育中なので対応することが難しいのが現状です。支援センターとも連携して、なるべく参加できるようにしていきたいと思います。

「運動会の役員さんは、わが子の応援もできず、大変ではないですか？」とご心配いただきました。運動会の役員の特権として、観覧席が優先されています。また、プログラムを見て配置して被らないようにしています。反省では、「ゴール付近から見るのでよかった。」という意見もあります。「卒園するまでの間に、一度は何らかの役をやっていただくよう、ご協力よろしく申し上げます。」と育友会三役の皆さんも申していました。

「育友会の役員をOB・OGにお願いしては？」という意見もいただきました。なるほどいい考えだと思います。可能かどうか育友会で検討することにしました。ご意見ありがとうございました。

2月10日(火) **幼児期の発達特性を理解することが大事**

「なぜ、できないの？」まだできない年齢なのです。

5歳くらいまでの乳幼児は自己中心的で、他の子とかかわる意識がありません。それが心地よいか不快かによって行動します。他の子の立場や感情、要求や願い事など理解することは難しいのでトラブルが起きるのです。でも、親や先生から言われたことは守ろうとします。繰り返すことによって、基本的な行動や道徳的規範意識が身についていきます。

“できないから教えるのです。親や先生は、言うだけでなく範を示すことが大事です”

幼児期の子は、家庭では親、園では先生の権威に尊敬と信頼を持っています。それに親や先生に認めてもらいたい（褒めてもらいたい）と思っています。善悪の判断も親や先生の判断に忠実に従おうとします。ですから、親や先生は、子どもの模範として道徳規範を首尾一貫して示す必要があります。親が間違った言動を示すと子どもはそれを真似し、それが正しいと思っています。



小学校に入ると、学校での規則的な生活や友だちとの活動を通して、他の人とのかかわりを深め、他人の立場や人格を尊重する傾向が徐々に芽生え始めます。子どもは段階を踏んで育っていくことを理解することが大事です。

保護者アンケートから「なぜ、地域との連携が必要なのか？」

「子育て」特に道徳的規範（心の教育）は、家庭とこども園、地域が密接に連携し、生活全般を通じて「つなげていく」ことが重要です。これまでは、学校などに努力を求めることが多かったのですが、ある意味もう限界にきています。家庭でのしつけ、地域での体験活動や交流を通じ、豊かな心や規範意識を日常生活の中で相互に養われるからです。ところが現代は社会構造の変化により、地域社会の教育的機能の低下が懸念されています。こども園でも、地域とのつながりを大切にさまざまな交流を行っています。野菜倶楽部さん、米太郎倶楽部さん、商工会青年部の皆さん、静寿園さん、訓高さんには、本当にお世話になっています。



10日(火)で0~4歳児の学級懇談が終了しました。

お忙しい中、夜遅くお集まりをいただきありがとうございました。入園式の件、春休みの協力依頼等を園長よりお話をさせていただきました。保護者アンケートのお礼など、もっとお話ししたいことはあったのですが、園長に与えられた時間は15分以内でしたので失礼しました。



2月12日(木)

オリンピックと選挙

「4歳児さんに日曜日何があったか知っている？」と聞くと「???'でした。5歳児に同じ質問をすると「選挙に行ってきたよ」、「オリンピック見てたよ。ジャンプとかスノボとか、小っちゃい丸を打つのもあった（アイスホッケーか?）」と答えてくれました。「1年長く生きてるとこんなに違うのか?小学校に入学しても大丈夫だなあ。」と感心しました。いろいろなことに興味関心を持つことが勉強の第一歩です。

乳幼児は自己中心的で、他の子とかかわる意識があまりありません。それが心地よいか不快かによって行動します。他の子の立場や感情、要求や願い事など理解することは難しいのでトラブルが起きるのです。しかし、親や先生から言われたことは守ろうとします。言われたことを繰り返し真似ることによって、基本的な行動や道徳的規範意識が身についていきます。運動能力（体の調整力）も同じで、縄跳びなど、まだうまく跳べません。

“できないから教える。親や先生は、言うだけでなく範を示すこと”

幼児期の子は、家庭では親、園では先生の権威に尊敬と信頼を持っています。それに親や先生に認めてもらいたいと思っています。善悪の判断も親や先生の判断に忠実に従おうとします。ですから、親や先生は、子どもの模範として道徳規範を首尾一貫して示す必要があります。親が間違った言動を示すと子どもはそれを真似し、それが正しいと思っています。

小学校では学校での規則的な生活や友だちとの活動を通して、他の人とのかかわりを深め、他人の立場や人格を尊重する傾向が徐々に芽生え始めます。子どもは段階を踏んで育っていくことを理解することが大事です。